

今回の政権交代に、「ノーの保障」を連想する

総選挙での政権交代について、「何事も私たちとちょっと違う観方をする阿部さんですから、今回のことはどう思っているのですか？」と、あるメル友から問いかけがあった。

お言葉に甘えて(*^_^*)、次のように厚かましく返信した。

【 どの党が云々でなく、今回の選挙で国民一人一人が自分の住む国の政権を自分たちの意志で選択できるものであるということを実感として学んだことが、これからの成熟した社会を作っていく上で、貴重な財産になると思っています。

以前から「ノーの保障（HP「雑学 BN」の随想等関係（Ⅰ）、1988.：参照）」と「選択肢の保障」を当 HP でも発信し続けていますが、最も大事な「ノーの保障」とは政権に対してノーを云えることで、言い換えればそれが究極的な自由の保障だと思っています。

まだ世界には、一党独裁の国や国に対し異論を口にすることで投獄される国もありますよね。

言論の自由が保障され、かと云ってみんなが好き勝手なことを主張するだけでは社会が成り立たないことから、長い歴史をかけて民主主義というシステムを人類は勝ち得てきたのであり、その最たるシステムが、国政選挙システムだと思います。

今回の総選挙のことは、民主主義システムが機能して民意による初めての政権交代だけに、これからの歴史書にゴシック体で記載・記録されるでしょうね。

従来から「どうせ投票しても、何にも変わらないから。」と棄権する人が少なからずいます（HP「雑学 BN」の随想等関係（Ⅱ）、2003.11.10.「選挙に行くって、こういうこと！」：参照）が、現政権党に代わる政党が育ってきたことは選択肢が保障されたということであると思います。

ですから、新政権の政策実行力如何によっては、次回の選挙では今回の選挙結果の逆もありますよね。

これからの日本はこうした政権交代の繰り返しの中で、更に成熟した社会への道を行んで行くのだらうと思っています。

ただ、「政治（界）は一瞬先は闇」と云われていますから、さて、二大政党制が早々に根付くかどうか…。】